

2025年1月1日からの 新しい試験規定の解説

新規定は、2024年11月30日～12月1日、ウィーンで開催されたFCI審査員会議で議論され、FCI実用犬委員会によって発表されました。

これらはVDH（ドイツ犬学協会）の実用犬委員会によって改訂され、ガイドラインとして認定組織に迅速に提示される予定です。

審査員による評価とその影響

審査は今後の訓練やイベントの質に大きな影響を与えます



訓練



ハンドラー

受験・出場

訓練と試験
の循環

評価を参考
に訓練



審査員



審査



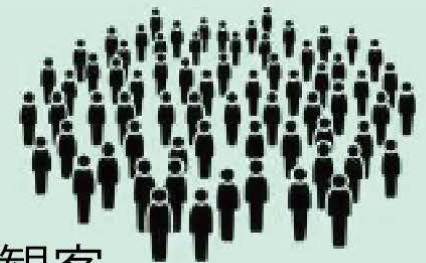
試験・競技



講評

点数発表

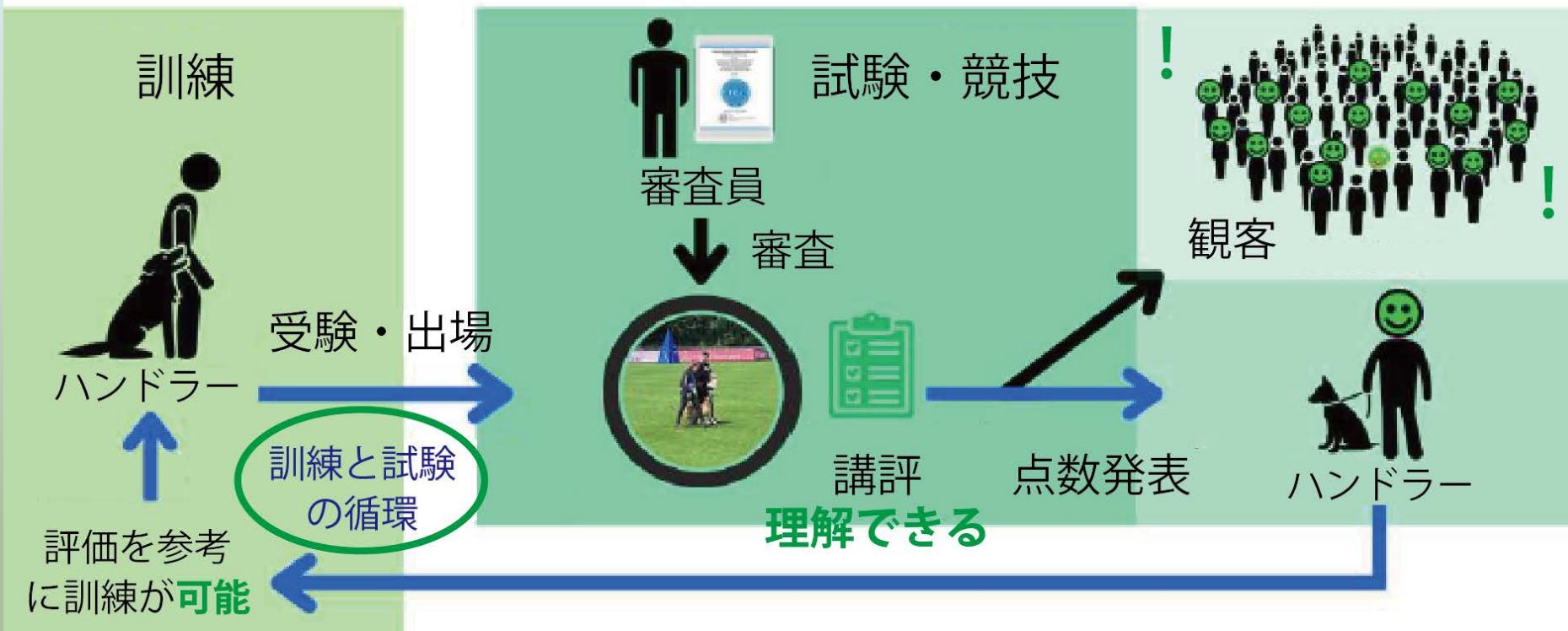
観客



ハンドラー

審査員による評価とその影響 ○パターン

評価が「理解しやすく、納得できる」場合

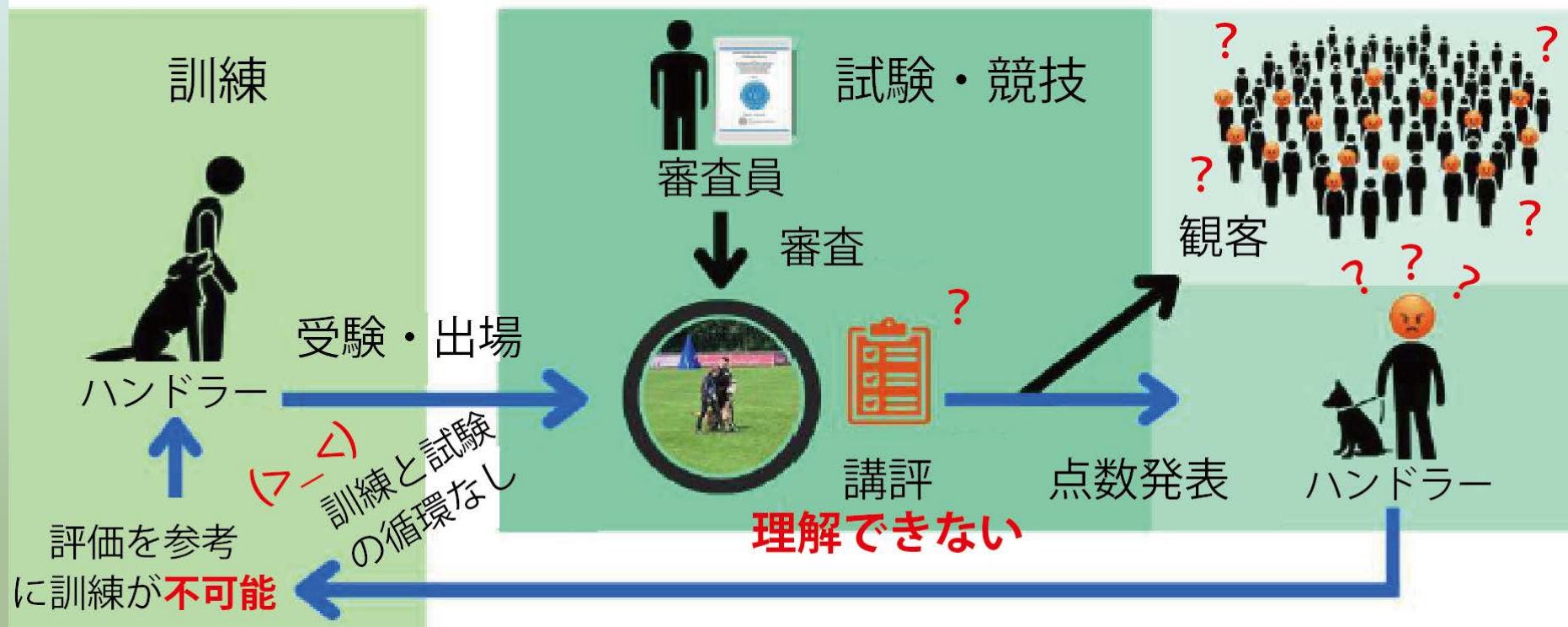


審査員による評価とその影響 × パターン

評価が「理解できない、納得できない」・・・



審査員が訓練者に必要な審査や講評を行えない場合、フィードバックサイクルが機能しない



全般事項

- 審査基準はハンドラーや訓練者にとって理解しやすく、納得できるものであるべきです。
- 審査員は評価・講評を通じて、訓練とドッグスポーツを促進する責任があります。
- 審査基準の統一と審査員の研修は非常に重要です。

!! 審査員はドッグスポーツの魅力を台無しにしないで !!

ハンドラーと訓練者に敬意を持ちましょう

表現

- 審査では、調和、表現力、技術に注目しなければなりません。そして、調和と表現は評価に反映されるべきです。

目標

- ストレスの兆候や神経の不安定さがある犬には高評価を与えないようにします。
- 不自然な歩き方や過剰なジャンプ、ぎこちない動きなどは高評価としません。
- 脚側行進では、犬がハンドラーに対して、体を押し付けるような動作は誤りと見なされます。
- 歩行中、ハンドラーの腕の動きは、自然な状態であることが求められます。

FCI-IGP 1

IGP 1 追求：

- 追求リードは5mでなければなりません。犬が追求コースから5m以上離れた場合、追求作業は中止されます。

FCI-IGP 1

IGP 1 服従 : 全般①

- 各課題後に約5秒間のリラックスタイムが許可されます。その行為の後には、次の課題のために再び基本姿勢をとる必要があります。
- 脚側行進を行うハンドラーは、リードなし脚側行進の開始前に、もう一方のハンドラーは休止の開始前に基本姿勢でリードを外します。
- 行進中の座れと伏せの動作（命令）は、脚側行進中または指示なし停座後に行うことができます。

FCI-IGP 1

IGP 1 服従：全般②

- 持来では、ダンベルを4m×4mの正方形エリア内に投げ込む必要があります。
- 基本姿勢の位置から8mの距離を起点として、エリアは設定されています。ダンベルをエリア内に投げ入れる試みは1回だけ許可されます。
(投げ直しのルールは廃止)
- ダンベルがエリア外に着地したり、転がり出た場合、審査員がアシスタントに指示を出し、アシスタントがダンベルをエリアの中央に配置します。
- ダンベルは常に同じ人物が同じ方向（横向き／ハンドラーから見て）で配置します。アシスタントは、ダンベルを正方形または長方形内に配置しやすいよう、審査員の背後で待機します。
- エリア外となった場合、ハンドラーは犬に「**Sitz 座れ**」の命令を与えることが許可されています。ハンドラーは犬の横で基本姿勢を維持しなければなりません。
- すべての試験段階におけるダンベル持来では、投げられたダンベルがエリア内であっても、審査員の発進許可の合図がない限り、犬に発進命令を与えることはできません。

FCI-IGP 1

IGP 1 ダンベル持来 15点

- 審査員がアシスタントにダンベルの置き直しを指示する前に、犬が勝手に発進した場合、この課題は「**M 10点**」（5点減点）と評価されます。
（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）
- アシスタントがダンベルをエリア中央に配置後、しかし、審査員の発進許可の合図の前に、命令なしで犬が勝手に発進した場合、**最大で2点の減点**となります（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）。
- アシスタントがダンベルを配置する前、まだ手に持っているタイミングで犬が勝手に発進した場合、この課題は「**M 0点**」として評価されます。
- ハンドラーが意図的にダンベルを正しく投げなかった（例：落とす、数メートルだけ投げるなど）。その行為が非スポーツ的とみなされた場合、**失格**となります。

FCI-IGP 1

IGP 1 1m障害 2回飛越 持来なし

- 点数配分：往路ジャンプ 5点／復路ジャンプ 5点／基本姿勢、正面停座、終了基本姿勢 5点
- 基本姿勢～ハードルまでの最低距離は4メートル。ただし、距離を長くしたい場合、基本姿勢位置は自由に決めることができる。復路ジャンプの開始基本姿勢は、往路ジャンプの終了基本姿勢と同じ位置となります。位置は変更できません。その距離は最低4メートルを確保する必要があります。
- 往路ジャンプで1m障害が倒れた場合、往路ジャンプの得点は0点（－5点）となります（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）。倒れた障害は復路ジャンプのために再設置されます。
- ハンドラーが1m障害の向こう側で、基本姿勢をとる前に犬が動いた場合（犬は障害を跳んだり、障害の横をすり抜けていない）、評価は「低いM」となります。犬が障害を跳んでしまったり、障害の横をすり抜けた場合、そのジャンプは「M 0点」と評価されます。（往路復路の共通ルール）

FCI-IGP 1

IGP 1 防衛：主な変更点

パトロール 2ヶ所（従来は1ヶ所）

「ヘルパーの遠距離攻撃阻止」の場面では、防衛ヘルパーがハンドラーと犬から常歩で20歩離れます。その後、審査員の指示でヘルパーは威嚇を開始します。

「ヘルパーの遠距離攻撃阻止」の後、ハンドラーは審査員の指示で犬のもとへ行き、犬に命令を与えて座させます。その後の側面護送は、リードなしまたはリード付き、どちらで行っても構いません。

審査員に終了報告した後、リードなしまたはリード付きの犬とハンドラーはコントロールされた状態で約5歩離れ、新たな基本姿勢をとった後、審査講評のための位置へとコントロールされた状態で移動します。

FCI-IGP 2+3

IGP 2+3 ダンベル持来 10点

- 審査員がアシスタントにダンベルの置き直しを指示する前に、犬が勝手に発進した場合、この課題は「**M 6.5点**」（3.5点減点）と評価されます。
（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）
- アシスタントがダンベルをエリア中央に配置後、しかし、審査員の発進許可の合図の前に、命令なしで犬が勝手に発進した場合、**最大で2点の減点**となります（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）。
- アシスタントがダンベルを配置する前、まだ手に持っているタイミングで犬が勝手に発進した場合、この課題は「**M 0点**」として評価されます。
- ハンドラーが意図的にダンベルを正しく投げず（例：落とす、数メートルだけ投げるなど）、非スポーツ的行為とみなされた場合、**失格**となります。

FCI-IGP 2+3

IGP 2+3 1m障害+持来 ①

ダンベルは障害の向こう側にマーキングされた、2×4メートルの長方形のエリア内に投げ込む必要があります。そのマーキングは障害から6メートルを起点にして設定されています。

ダンベルをエリア内に投げ入れる試みは1回だけ許可されます。
(従来の投げ直しは廃止)

ダンベルがエリア外に着地したり、転がり出たり、障害にぶつかった場合、審査員がハンドラーにストップの合図を出し、アシスタントにダンベルを長方形エリアの中央に配置するように指示を出します。

ダンベルは常に同じ人物が同じ方向（横向き／ハンドラーから見て）で配置します。

アシスタントは審査員の指示があった場合、ダンベルを迅速に配置できるよう、審査員の背後に位置します。

FCI-IGP 2+3

IGP 2+3 1m障害+持来 ②

アシスタントがダンベルを置き直す場面で、ハンドラーは犬に「**Sitz 座れ**」の命令を与えることが許可されています。ハンドラーは基本姿勢で犬の横に立っていなければなりません。

すべての試験段階におけるダンベル持来では、投げられたダンベルがエリア内であっても、審査員の発進許可の合図がない限り、犬に発進命令を与えることはできません。特に、ハンドラーがダンベルを視認できない1m障害や斜壁の場合、このルールは極めて重要です。

FCI-IGP 2+3

IGP 2+3 1m障害+持来 ③

- 審査員がアシスタントにダンベルの置き直しを指示する前に、犬が勝手に発進した場合、この課題は「**M 10点**」（5点減点）と評価されます。
（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）
- アシスタントがダンベルをエリア中央に配置した後、しかし、審査員の発進許可の合図の前に、命令なしで勝手に発進した場合、**最大で2点**（犬がどのタイミングで飛び出したかによって異なる）の減点となります。
（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）
- アシスタントがダンベルを配置前に、まだ手に持っているタイミングで犬が勝手に発進した場合、この課題は「**M 0点**」として評価されます。
- ハンドラーが意図的にダンベルを正しく投げず（例：落とす、数メートルだけ投げるなど）、非スポーツ的行為とみなされた場合、**失格**となります。

FCI-IGP 2+3

IGP 2+3 1m障害+持来 ④

- 往路ジャンプで障害が倒れた場合、そのジャンプは1点として評価されます。犬が倒れた障害を越えて戻った場合、復路ジャンプも1点として評価されます。
- 旧規定のやり直しは適用されません！！！！

FCI-IGP 3

IGP 3 斜壁+持来 (160 cm) ①

ダンベルは斜壁の向こう側にマーキングされた、2×4メートルの長方形のエリア内に投げ込む必要があります。そのマーキングは障害から6メートルを起点にして設定されています。

ダンベルをエリア内に投げ入れる試みは1回だけ許可されます。
(従来の投げ直しは廃止)

ダンベルがエリア外に着地したり、転がり出たり、斜壁にぶつかった場合、審査員がハンドラーにストップの合図を出し、アシスタントにダンベルを長方形エリアの中央に配置するように指示を出します。

ダンベルは常に同じ人物が同じ方向（横向き／ハンドラーから見て）で配置します。

アシスタントは審査員の指示があった場合、ダンベルを迅速に配置できるよう、審査員の背後に位置します。

FCI-IGP 3

IGP 3 斜壁+持来 (160 cm) ②

アシスタントがダンベルを置き直す場面で、ハンドラーは犬に「**Sitz 座れ**」の命令を与えることが許可されています。ハンドラーは基本姿勢で犬の横に立っていなければなりません。

すべての試験段階におけるダンベル持来では、投げられたダンベルがエリア内であっても、審査員の発進許可の合図がない限り、犬に発進命令を与えることはできません。特に、ハンドラーがダンベルを視認できない1m障害や斜壁の場合、このルールは極めて重要です。

FCI-IGP 3

IGP 3 斜壁+持来 (160 cm) ③

審査員がアシスタントにダンベルの置き直しを指示する前に、犬が勝手に発進した場合、この課題は最大「**M 6.5点**」（3.5点減点）と評価されます。
（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）

アシスタントがダンベルをエリア中央に配置した後、しかし、審査員の発進許可の合図の前に、命令なしで勝手に発進した場合、**最大で2点**（犬がどのタイミングで飛び出したかによって異なる）の減点となります。
（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）

アシスタントがダンベルを配置前に、まだ手に持っているタイミングで犬が勝手に発進した場合、この課題は「**M 0点**」として評価されます。

ハンドラーが意図的にダンベルを正しく投げず（例：落とす、数メートルだけ投げるなど）、非スポーツ的行為とみなされた場合、**失格**となります。

FCI-IGP 3

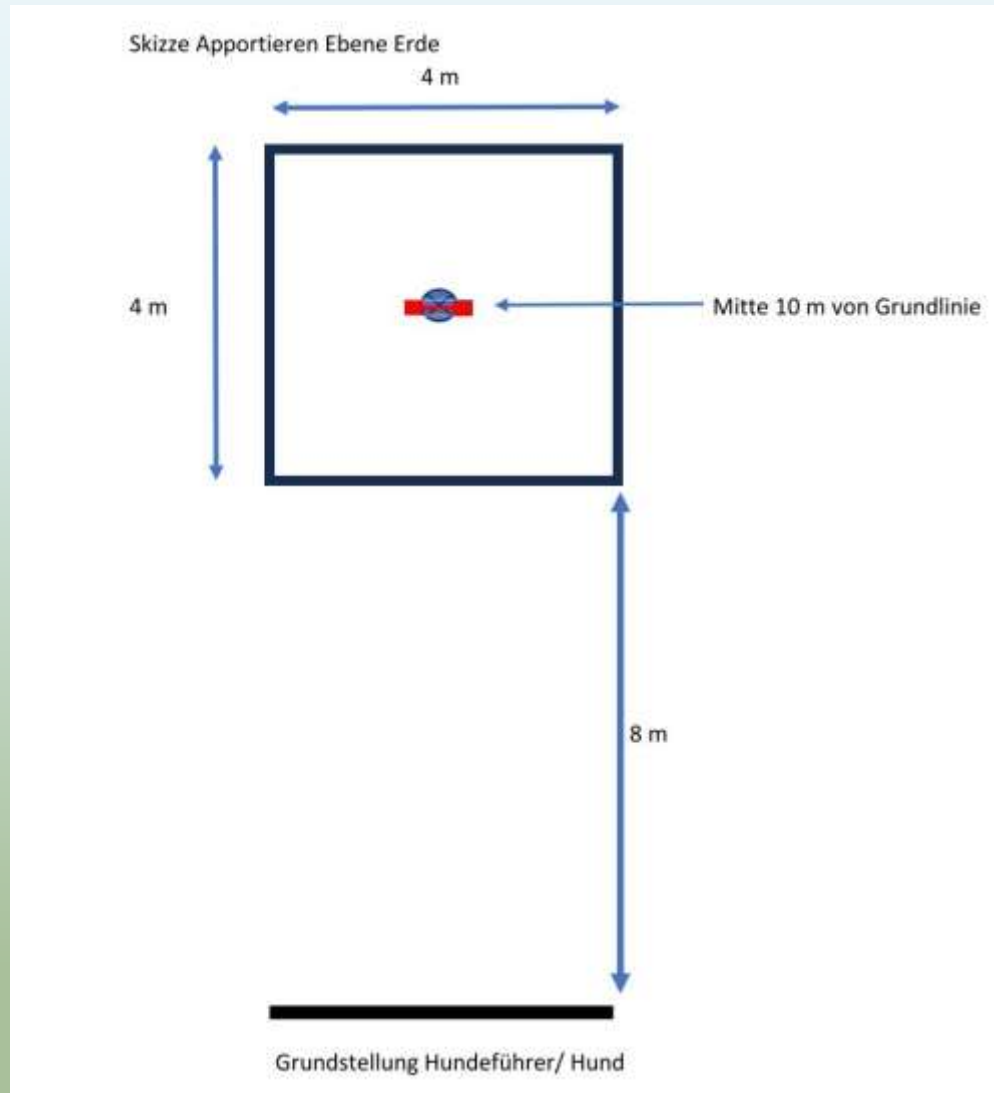
IGP 3 斜壁+持来 (160 cm) ④

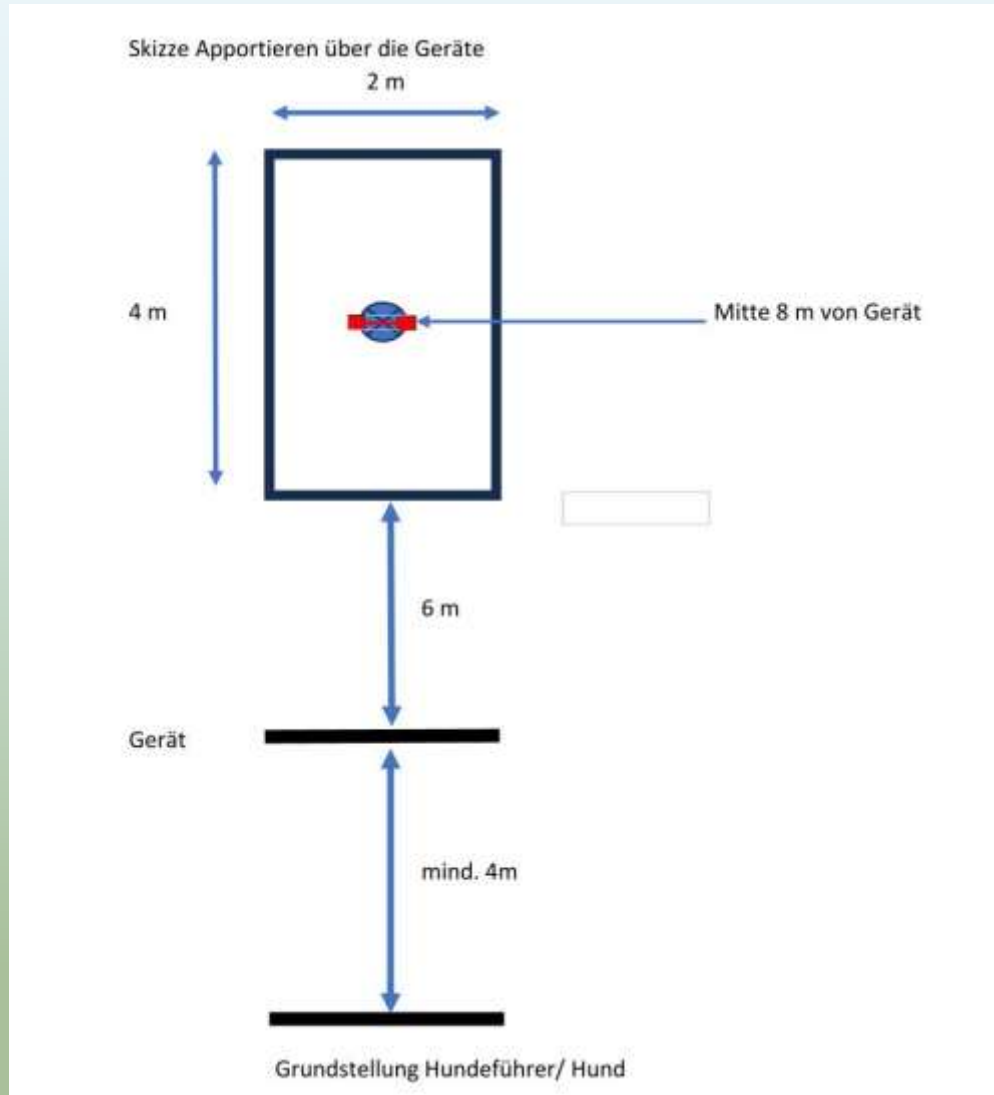
往路または復路の登攀を行わなかった場合、5点減点。

往路と復路の両方を登攀した場合にのみ、それぞれに2.5点が与えられる。ただし、登攀動作にミスがあれば、その2.5点から減点が行われます。

FCI-IGP 3

- アシスタントがダンベルをエリア中央に配置後、しかし、審査員の発進許可の合図の前に、命令なしで犬が勝手に発進した場合、**2点の減点**となります（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）。
- 審査員の指示後、アシスタントがダンベルに触れる前に、犬が勝手に発進した場合、**ダンベル持来および斜壁+持来（10点満点）は「M 6.5点」**となる。**1m障害+持来（15点満点）は「M 10点」**となる。（その他にミスがある場合、別途その減点は加算される）
- アシスタントがダンベルを配置する前、まだ手に持っているタイミングで犬が勝手に発進した場合、この課題は**「M 0点」**として評価されます。
- アシスタントがダンベルを配置中、犬がアシスタントのもとへ向かった場合、課題は**「M 0点」**と評価されます。







Verein für
Deutsche Schäferhunde
(SV) e.V.

Aus Respekt zum Hund.





Verein für
Deutsche Schäferhunde
(SV) e.V.

Aus Respekt zum Hund.







IGPにおいて使用される単列のチェーン



許可された場合にのみ使用できるチェーン



ご清読ありがとうございました